

給水能力を大幅アップ

戸頭浄水場 拡張工事

ガス水道局では平成八年の完成を
目指して戸頭浄水場の拡張工事に着
手します。総工費は約二十三億円。
一日当たり最大給水量を四万二千立
方メートルにするほか、中央監視制御を全

自動化します。さらに現在一系統の
配水体制を二系統にし、全面断水を
回避。併せて親水公園を整備してホ
タルを飼育するなど、皆さんに親し
まれる浄水施設とする計画です。

水需要の増加で 現施設はぎりぎり

ガス水道局では、平成二十二年
を目標とした上水道第五次拡張計
画を作成。それに基づき、今年度
から戸頭浄水場拡張工事に着手し
ます。総工費は約二十三億円。八
年秋の完成を目指しています。
現在の施設能力は一日当たりの
最大供給量が二万五千立方メートル
が、これを四万二千立方メートルに拡張。
沈でん池一池、ろ過池三池を増設、
配水池一池を新設、さらにポンプ
など既存施設を更新し、能力アッ
プを図ります。

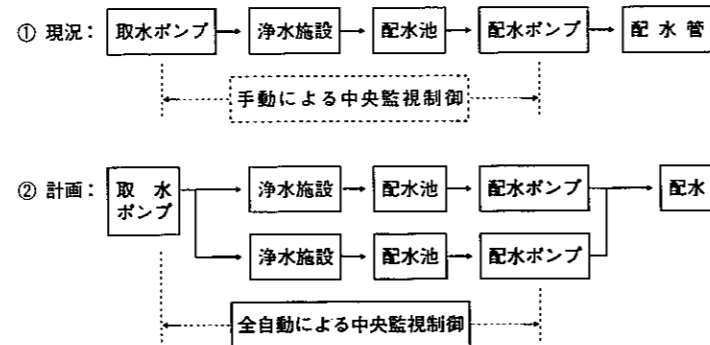
画（目標は平成二年）によるもの
で、戸頭浄水場は昭和四十八年に
完成しました。
その後、大通ニュータウンの造
成などによる人口増加、和泉・北
部両工業団地の造成により、水需
要は大きな伸びを示しました。特
に近年は水洗トイレの普及をはじ
めとする生活水準の高度化、多様
化に伴い、個人の水需要が増大。
一人当たりの平均給水量は、さら
に増加することが見込まれます。
平成四年度の一日最大給水量は
二万三千八百三十立方メートル。施設能
力ぎりぎりの線に近づいていると
いえます。特に水需要のピークと
なる夏場は、水源である中ノ口川
の渇水期にも当たり、水不足が懸
念されます。

■給水区域内人口・給水量予測

(4年は実績)

	平成4年	平成8年	平成13年	平成18年	平成22年
計画給水区域内人口(人)	42,251	43,258	44,879	46,651	48,000
1日平均給水量(㎡)	18,557	21,210	24,414	27,679	30,345
1日最大給水量(㎡)	23,830	29,055	33,908	38,443	42,000
1人1日平均給水量(ℓ)	439	490	544	593	632
1人1日最大給水量(ℓ)	570	672	756	824	875
公称施設能力(㎡)	25,000	42,000	42,000	42,000	42,000

■配水系統を拡張 □の施設について拡張、改善



〈浄水施設～配水ポンプの拡張施設の分散化により、全面断水を回避〉

全面断水を回避 親水公園を造成

現在の水道施設は、取水してか
ら各世帯に配水されるまで、一系
統しかありません(上図)。万一、
取水から配水管幹線までの設備に、
事故や故障が生じた場合、給水区
域は全面断水に陥る危険性を持っ
ています。今回の拡張では全面断
水を回避するため、施設の増・新
設により、配水を二系統とします。
さらに現在手動で行っている中
央監視制御を、全自動運転にしま
す。省力化を図り、季節的、時間
的に変動する配水量に適切に対処
できることとなります。

水源は限られている

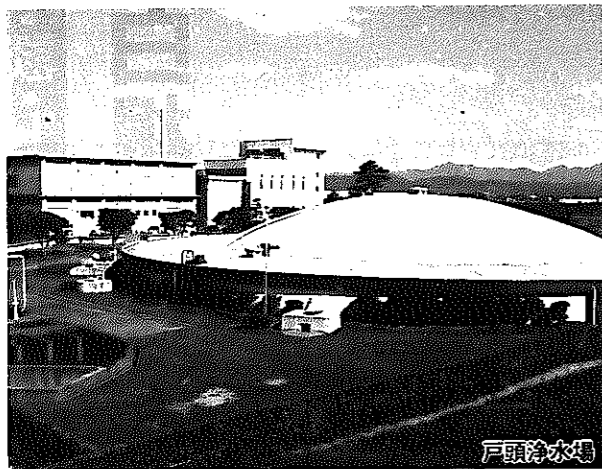
浄水場を拡張しても、無制限に
取水することはできません。増量
分は当面、暫定水利権となるため、
渇水期には取水制限を受けること
も予想されます。将来的には安定
水利権を得るよう、建設省と協議
中ですが、それには清津川ダムの
完成を待たなければなりません。
水道水の安定供給は、水道事業の
使命ですが、水を大切に使うとい
う、市民一人ひとりの協力なしに
は難しいことをご理解ください。

老朽管を入れ替え

今回の拡張計画と並行し、老朽
化した石綿セメント管の入れ替え
を、さらに進めることにしていま
す。石綿セメント管は昭和三十年
代から使用されているもので、現
在区域内の本管・支管の四七%を
占めています。これらは耐久性の
上で問題があり、国・県からは西
暦二〇〇〇年までに入れ替えるよ
う、強い指導を受けています。
ガス水道局では昭和五十五年
度から入れ替えを行っています。当
いう巨額の事業費が必要です。当

料金改定を検討中

浄水場の拡張や老朽管の入れ替
えなど、大型事業を実施していく
には巨額の費用が必要です。水道
事業の経営は皆さんから負担して
いただく水道料金で賄われていま
すが、現在の料金体系のままでは
これらの事業を進めていった場合、
平成六年度には赤字経営に陥って
しまいます。そこで健全財政を維
持するため、料金の改定を検討し
ています。改定については、市民
の皆さんからご理解をいただける
ものとするよう、作業を進めてい
ます。市民の皆さんのご理解とご
協力をお願いいたします。



可能にします。より安全で、おい
しい水を求める声は年々高まり、
厚生省は水質基準を大幅に見直
しました。施設の拡充強化により、
それらにこたえる水質検査体制の
整備充実を図ります。現在、塩素
の注入量を必要最小限に押さえる
など、安全な水道水の供給に努め
ていますが、今後さらに信濃川水
系の市町村と連絡を密にし、水質
の管理を行っていきます。
また、施設面の充実と併せて、
外構工事にも力を入れたのが、今
回の拡張工事の特徴です。配水池
の周りにせせらぎのある公園を造
り、ホタルを飼育する計画です。
浄水施設内ということもあり、安

全面的には十分配慮。市民の憩いの
場となる「ホテルの住む浄水場」
として、より一層親しんでもらえ
るような施設とします。